

(表紙)

明治二己巳歳日記

(002)

二月二日 府御上御礼之配府、年内大年ニ着、三右衛門を頼

不快御達申上不参

四日 庄屋平兵衛〇歩行役善六持来り候写

上包紙ニ御口上書

五十嵐嘉兵衛
加藤理右衛門

其村庄屋給米之義ニ付百姓共異儀申立会合等不致

赴相聞以之外之事ニ候、頭立候者共申談急度例格通り

可取扱事

附尚此上例格通り之義ニ付異儀有之節ハ来春遂熟

談可申出事

右之趣被仰出候条可被得其意候、已上

辰十二月

石本与喜右衛門
広田八十右衛門

六日 出福、牧安ニ泊り、村松并井原行

七日 朝飯後府中方江出かけ村国へ行、五郎左衛門立寄拾四匁之

ようかん壺本持参、酒吞夫〇弥次右衛門方へ行、忒拾匁之ようかん

一本持参、五郎左衛門同道出府、種屋へ着

八日 御家中年頭廻勤、種屋ニ而昼飯たべ昼後〇出かけ

帰福、遅ニ牧安へ着、種屋酒肴・一宿料共現銀はらひ

相済

九日 牧安ニ滞留

十日 朝飯後出かけ帰村、牧安ニ前後三宿払不為

十一日 昼後嘉兵衛方江年礼ニ行、酒吞

十二日 朝初御講、藤七宿自分参り

十三日 嘉兵衛〇年玉、酒忒升・ほうだら忒本、使市之助を被持到来

御引五匁出ス、後刻嘉兵衛年礼ニ見エ、酒出シ肴かに・数子

かも吸物、跡ニそば切出ス、晩方嘉兵衛引取り

十九日 朝三国行、加藤方ニ泊り同日鷺田へ行

銀五拾匁加藤江年玉遣ス、五拾匁わし田□持参

(003)

廿日 嶋加藤ニ逗留

廿一日 右同断

廿二日 嶋加藤を出野中小嶋へ行、同所老人夫婦留主、泊り

廿三日 昼後帰村、但小嶋江かれ忒忒三枚・菓子拾匁持参

廿四日 留主中牧安来り泊り

廿三日 留主中ニ牧安帰福

廿六日 牧安朝宮一件ニ来り泊り、廿七日同人帰福

廿八日 龜次郎結城縞五反求ニ付三国嶋加藤へ行、同日帰村

廿九日 昼後出福、牧安へ着、あら町青木へ行、夫、井原へ行

牧安へ帰り夜分朝宮結納受取り笹谷村渡辺与四郎

持参ニ而牧安へ来り、牧安受取り、朝宮門左衛門・村松も出席

酒の肴いほがに一はい・かれさし身一・やきがれ式枚一はい、三種

外ニしたし物壺ツ・吸物一ツ出し

帯料式歩金ニ而五両・酒代同壺両・肴代同壺両、三種受取り

晦日 朝飯たへ牧安を出、天井弥助ニ而寿相伴昼飯よばれ

同日 晩方帰村、牧安ニ而一泊、夕飯・朝飯ばかり致ス

二月二日 おはる不快之事、源太郎三国ニ而権七へ逢承り返り候ニ付

多蔵見舞ニ行、但くねんほ五ツ・さと箱壺ツ持参、おはる江渡ス

多蔵申之、泊り

三日 昼前多三帰村

四日 龜次郎出福、おはるへ遣スミかん買ニ行

六日 多左衛門三国へ銀借用ニ同人手間ニ而遣ス、同日晩帰村

七日 晩方嘉兵衛方おゆう・おりう・またろ三人よび、始而おりう嫁見

こん立 汁 かまほこ味噌汁 猪口ぼうたら 天根なますかに入 膳の上

大 かれ皿 平 ナマふ一ツ 茶巾ゆば にんしん こんにやく かんひょう、五品 茶碗 切いも かまほこ しめ竹 三品

右是は盆ニ而前ニ出ス

酒の肴 かれ かに 大根なます 吸物 かまほこ かも ねぎ

一銀百匁 酒 五拾匁 肴 二包嘉兵衛方、おゆう持来候得共

此分ハおゆう江返し 此分壺包取置

未取

十二日 三国鷺田へ行、同日晩帰村、同日留主中村松見エ帰り、小菓子

箱壺ツ持来り、同日野中小嶋五左衛門来り、泊り

十三日 昼飯後福井迄行取り

(004)

廿一日 出福、牧安へ着昼飯たべ膳の上ニ而壺合呑、おさと買物致ス

夕方天弥ニ而酒馳走ニ相成、牧安へ帰り夕飯たへ

廿二日 昼飯牧安ニ而たへ天井若者甚吉同道ニ而帰村

膳の上ニ而一はい呑ミ

廿三日 朝天井甚吉帰福致ス

同日 三国加藤方江朝宮一件被知ニ多蔵行、晩方帰村

廿日 昼後安沢治右衛門来り、夕飯後帰村

廿五日 但万寿三十札老枚・ようかん箱一ツ代銀拾匁斗二品土産ニもらひ

同日昼後喜平野中江おはる荷物取ニ行

廿六日 朝宮岩堀立寄、但三国へ帰りかけ源氏豆壺袋土産もらひ 代五十匁斗

- 廿九日 未明舟ニ而おさと・おはる同道ニ而初而朝宮行泊り、供喜平・善六
下女もと・もり・の中とく、おさと事岩堀ニ而おひろと改名
晦日 晩方帰村
- 三月四日 おひろ里帰りニ付岩堀家内・栃谷家内送り来り泊り、二晩泊り
三月十一日 おひろ初帰り、朝宮迄自分送り行、泊り
十二日 晩方自分帰村
廿日 朝宮行、牧安同道泊り
廿一日 昼後帰村
廿四日 三国嶋加藤家内来り、泊り、菓子拾ふ斗おひろ江
ひか□きん壺丈・わたは七□もらひ
廿五日 昼後三国家内帰り
廿八日 出福、天井へ行、牧安へ寄夫の井原へ行中飯致し
柿分江行買物致し晩帰村
四月二日 三国へ行、加藤ニ而銀借用、泊り、鷺田へ行同夜
鷺田嶋へ来り、うたひ
三日 昼前帰村
七日 昼後高江館平右衛門遊ニ来り、夕飯後帰村
九日 手代蔵聲入大牧へ自分よはれ行、供喜平、酒式百匁、肴百匁
同日晩帰村
十二日 出福、柿分□多行、同日晩帰村、柿分ニ而弁当致ス
(005)
十七日 三国行、嶋加藤ニ而出村次郎吉家内心配ニ而銀式拾貫匁
借用、印証相渡□□来ル十月切返済
但盆前ニ返済致度事、同日晩野中へ出泊り
十八日 昼前帰村
廿七日 昼過亀次郎逐電致ス、左文字脇指壺本・
式歩金式両・銀札壺貫匁斗箱の中さかし
無断取引申し候、外ニ紺ふくりん帯取引キ
五日一日 出福、牧安へ行、自分・佐太郎・もと三人御膳たべ
晩方帰村、佐太郎同道ニ而行、跡もと迎ニ来り
柿分の火ばちあんどろ取帰り
七日 栃谷村庄蔵おひろ着物の手紙持来り
九日 紹かたひら・越後かたひら・七子織単物三品野中。善六
を以取寄夫の同人を以同日牧安迄差出ス
十三日 出福、柿分行、米善ニ而中飯致シ村松へ行酒呑、牧安へ帰り
泊り、夕方牧安ニ而酒呑かれ壺枚・いり身壺盃
十四日 昼飯前牧安を出昼寝中帰宅
十五日 お春・およき・源次郎野中へ行、供喜平・お春・ミえ
同日 使源太郎を以唐絵かけ物壺ふく本多源四郎様

廿三日 江差上ケ、使源太郎、但村松迄差遣ス
高江平右衛門へ半夏生ニ行夕方帰り

東畢画・須子扇子二品持参

晦日 浅宮行、泊り、黒さと老斤・菓子三拾匁持参

六月一日 同所ニ滞留

二日 浅宮門左衛門同道出福、帰村

四日 源太郎出福、御坊行天井銀渡ス同日帰村

八日 村松隠居銀返済ニ来り、昼後帰福

(006)

九日 鷲塚嘉右衛門来り、亀次郎書状初而到来

十四日 三国行、加藤ニ而昼飯、夫〇出村牧屋へ行、万寿十持参
夫〇嶋へ帰りお春面会、晚方帰村、牧屋銀延呉様頼

十五日 源太郎出福、牧安天井江金札替ニ行、不出来
但京亀次郎贈り之品

同日 多蔵三国江御祝見ニ行

十六日 昼前多蔵野中小嶋江金札借りニ行、不出来

同日 昼前源太郎福井村松へ金札かりニ行、不出来

外ニ而老両替帰り、代銀四石六拾匁ニ而替帰り

同日 高江平右衛門祭礼ニ来り、夜分帰村致

同日 晚方鷲塚嘉右衛門来り、京都大宮甚之介・

加藤俊蔵・亀次郎三人江贈書状老封ニ致シ

鷲塚嘉右衛門へ渡シ同村権六悴八蔵ト云人

大坂へ帰坂ニ付頼遣ス

亀次郎書中江金札老両式步入贈ル

但老両は源太郎福井ニ而求メ式歩は手前ニ有合

廿四日 銀四匁ト錢十文御祝銀庄屋平兵衛〇受取り

但中納言様御任官殿様御婚姻之祝

廿七日 出府暑氣見廻、種屋泊り、和助御用金ニ付出府

同道致ス、種屋現銀払致ス、但和助ト兩人分

廿八日 朝本多庄左衛門・和田敬之助・町村織之丞三軒江

暑氣見舞ニ行、昼後〇福井へ帰り牧安ニ泊ル、和助ト兩人

廿九日 昼後牧安〇帰ル、和助は朝引取り

同日 留主中ニ小嶋利兵衛来り泊り

七月三日 三国行、嶋加藤へ行夕飯たべ野中小嶋家内病氣見廻

盆礼旁行、泊り、但三国加藤江銀借用ニ行

同四日 昼後野中〇三国へ出銀致借用、夕方帰村

(007)

右同日 野中利兵衛〇出村有久屋行銀式百六拾匁

受取、同日其足ニ而木藤方へ渡ス、但此は已前
受取書渡り候故前之受取不取

四日 留主中福井まき安来り、留主中ニ帰り
但浅宮一件

五日 出福牧安へ行一宿、但村役一件願書認メ并金銀
質入受出シ一件ニ付山室吉兵衛も出福、牧安ニ泊り先方
間違申立大迷惑かけられ申し候、牧安益前払
相済シ山吉宿料老ツ此方。払致申し候

六日 昼後帰村
三國嶋加藤江銀金返済もと遣ス

七日 亀次郎并加藤俊蔵。書面高江村重兵衛。
相届き申し候

廿六日 おひろ朝宮江帰村
同日 昼過下女おミ田端江休ミに行

廿五日 三味腰そばまき
廿八日 昼過東田嶋そばまき

八月朔日 念教廿五回忌御経もらひ盆参旁森田寺へ行
御経もらひ院主留主ニ付新発意ニ御経もらひ
布施志別帳ニ記ス、寺ニ而昼飯致シ戻り、鷺塚
嘉右衛門方へ立寄酒ニよばれ晩方帰村

三日 安沢牧田弥右衛門悖弥十郎連初而来り、昼飯
酒出シ昼寝起帰村、式升樽入酒・もち壺重一品
到来

四日 野中江お春着物ふり単物・絹帷子・越後かたひら
三品并茄子五十使柳助を以被持遣ス、夫。三國へ

(008)

出塩壺表・そうめん十求来ル

五日 昼後福井江京都行土産求ニ行、晩帰村、多蔵
十五日 自分佐太郎同道安沢牧田へ祭礼ニ行、夕喜兵衛迎

夜分帰村、菓子箱一ツ・万寿札五匁牧田江持参
十九日 到来配府、二日市村

村役之外格別之御趣意を以左之通
被仰付候事

千代三郎

多 蔵

嘉三右衛門

三右衛門

善 吉

嘉右衛門

右六人之者庄屋・長百姓共順番勤

次郎兵衛

七兵衛

和助

平兵衛

與兵衛

伝大夫

右六人の者長百姓順番勤

右当番組合

庄屋 千代三郎 長百姓 多三

次郎兵衛

多三 嘉三右衛門

七兵衛

(609)

三右衛門 善吉

平兵衛

善吉 嘉右衛門

与兵衛

嘉右衛門 千代三郎

伝大夫

ノ

巳八月 御代官所

八月廿一日 お春来り、送り人由松

同廿二日 おひろ来り、送り人ふさ吉并下女ノ式人

廿三日 牧田弥右衛門父子祭礼ニ来り、小かつほふし

壺本到来、夕方父子帰村 小鯉節壺本

安沢もらひ

の中・浅宮ノ来客壺人もなし

祭 酒の肴 浜やきかつほ魚壺本ト焼ふくらけ壺本

いかねぶかあい からし すし

すこメ四品 他膳付あゆ

八月廿七日 早朝出立上京、浅宮おひろ同道、供柳助

同日晩 脇本村さの屋泊 同廿八日 はん原沢崎左近泊

同晦日 海津井筒屋泊 九月朔日 小松大文字屋新右衛門泊

九月二日 唐崎万屋九兵衛泊 三日 京都田中屋友右衛門着、泊り

同四日 同断 五日 同断

同六日 同断 七日 同断

同八日 京都出立大津川口 九日 蒸気船ニ而大津ノ海津迄来

米屋次兵衛泊 海津河田屋ニ泊

同日 今庄平塚屋ニ泊り 十一日 帰国
 但供柳助は宿料払遣候而外二人足賃なし
 京都ニ而金札式朱御参銭とらせる
 九月十七日 昼後京都の亀次郎帰着
 同廿四日 森田新發意御下向奉加頼来り、役僧卜兩人
 昼飯たへ帰る

(010)

十月二日 昼後むら松隠居来、酒吞引取り
 同日 昼後森田寺御下向ニ付参り、鷲塚嘉右衛門方へ寄
 泊り、三日朝帰宅
 十月八日 昼後野中利兵衛来り、泊り
 同九日 昼飯後利兵衛致帰村
 同十二日 昼後大正寺神明神主加藤正夫・嶋加藤家内・僕老人
 べ三人来り、泊り
 同十三日 昼後右三人致帰湊、お玉元ニ被負同道三国行
 大聖寺正夫のミヤゲ到来、正金式朱御酒トシテ、扇子式本
 蒔絵盃老ツ・風呂敷老枚べ、外ニ籠扇子式本・銀拾匁二品、男衆トシテ上書有
 手前二人、正金老朱・ふくさ老枚二品および江正夫のミヤケ
 銀拾匁三包下男下女二人江
 嶋加藤の山のいも老抱到来、大正寺家来江銀拾匁御引遣ス
 廿二日 亀次郎三国加藤へ行、泊り、小豆老升持行
 廿八日 糸崎吹上の法事使来り、使の者同日丸岡へ行泊り
 廿九日 右使人丸岡の来り、同日使同道および源次郎・守もと
 糸崎へ行、贈答物日記帳ニ記ス
 同日 昼後お玉三国のよしニをわれ帰村
 霜月朔日 多蔵府中夫銀持行泊り
 二日 夕飯後遅ニ多蔵帰村
 六日 夕方および帰村、送り下女老人泊り、御引拾匁
 八日 出福時安へ行昼飯致し泊り
 九日 山室吉兵衛同道 下領御頭木内甚兵衛様并受込江守耕一
 両所へ行、牧安へ来り泊り、同日夜野中利平ト付合軍
 書聞ニ行、米善并片岡良太夫方へ行、米善へ式拾匁
 片岡江五拾匁
 十日 朝牧安の帰村
 十一日 安沢村新造親同道初而来り、玉子十もらひ
 (011)
 十一日 味噌煮・そろひ豆六斗、此塩豆二八割 老表二付
 百五拾五匁ツ、

外二運賃五匁ツ、
表百六拾匁

糍豆之五割ノ糍三斗、此代銀壹升四拾匁ツ

但もりはかり、金剛寺弥三次。

十四日

朝宮門左衛門来り、泊り

十五日

門左衛門滞留、昼後牧安来り、泊り

十六日

昼後門左衛門牧安兩人帰福

大鯛壹枚 籠菓子一袋 門左衛門ミヤケ

小かまほこ壹枚、牧安ミヤケ

廿一日

夕方遅安沢牧田下女迎ニ来り、同道ニ而よはれ泊り

廿二日

夜ニ入山室栄助同道ニ而帰村、牧田江大鯉節壹本持参

廿五日

昼後半人卯太郎惣報恩講手伝源太郎ト兩人して

米小豆集め白米七升五合有、小豆壹升五合有

同日

善六福井江正善寺迎ニ行、泊り此方。七升五合出シ

ノ白米壹斗五升 遣候

廿六日

昼惣報恩講相勤正善寺并役僧ノ式人泊り

惣報恩講ノ廿五人参り若者昼御齋後御伝抄

夕飯後御法座

内手伝喜太郎・卯太郎・条次郎、若者。銀拾匁

宿取礼辞退致候得共 無理ニ置候

同日

晩三国大助来り、泊り、菓子箱ニ・書壹枚・扇面壹本

もらひ

廿七日

朝飯後大助引取り

朝。善右衛門・善助・善六御勤、正善寺廻り、戻り此方ニ而

昼飯たべ引取ル、送り人善右衛門、いものこ式升・牛蒡式わ

正善寺江、銀五匁役僧江

廿六日

おゆう・またろ休ニ来ル

晦日

昼後。朝宮行、膳進上致ニ付致入来候様申ニ付行キ

ねりようかん老本代百匁あら井屋ニ而求メ岩堀江遣ス

十二月朔日

岩堀ニ逗留、留主中森田御院主秋廻りニ来り

泊り

二日

朝御院主引取り、自分朝宮。帰村

来年森田秋廻り、御院主御宿廻り番之趣、寺番源助を以申聞ル

(012)

四日

安沢弥右衛門そは切ニまねき、昼後來り

小袋金米糖一・白さと箱一ノ二品もらひ夜分

帰村致ス、内。迎人来ル

朔日

森田寺新発意并光臨寺兩人自分朝宮行留主

中ニ来り、泊り、留主故迎人差越不申先方。押かけ

- 来り、報恩講御勤礼式拾匁光林寺江拾五匁多蔵。
十日 早天朝宮。舟来り、酒式升樽壺ツ被持遣ス
其舟ニ米三十表渡ス、内式十五表はおひろへ仕立方へ渡シ
外五表はうり米多蔵上乘ニ而行キ泊り
十一日 夕方遅ニ多蔵帰村
十三日 出福牧安へ泊り其日村松へ行酒ニよばれ牧安へ帰り泊り
十四日 朝後藤藤海平并野村卓助・小倉万三郎三軒へ行、右三軒初而行
同日 昼時。井原へ行昼飯よばれ夕飯牧安へ帰り泊り
十五日 牧安盆後ほらひ悉致し、昼前帰村
廿一日 西方寺治右衛門方江戸籍帳之事ニ付多蔵行、同日帰村
廿二日 次右衛門方江銀三拾匁菓子料初而遣ス
すゝはらひ
廿七日 早天。餅つき、餅米白米五斗、小米餅壺升、黍納式斗
同日 浅宮。歳暮使来り もち五ツ・小米もち三ツ・黍もち三、喜兵衛うす木とらせ
廿八日 月次御講与助・政右衛門不参
(013)
三月十一日 千歩寺兄新発意泊り法話布施拾匁
但朝宮行留主中万寿札右同人。もらひ
六月廿四日 古木村蓮光寺泊り、法座、菓子料拾匁進
廿五日 福井迄送り、もと
八月十九日 湯尾浄源寺泊り、御法話、沈香壺ツもらひ
菓子料拾匁進、折戸村迄送り、もと
十一月廿六日 惣報恩講福井正善寺役僧共二人来り、泊り
廿七日 迎善六送り、善右衛門昼後帰福、いものこ式升・牛蒡式わ上
十二月朔日 森田御しんふつ・光臨寺兩人秋廻りニ来り、泊り、秋廻り宿致
自分朝宮行留主中